オティックスグループ

環境報告書

Environmental Report 2017

2017

OTICS

ごあいさつ

オティックスグループは、動弁系部品を中心とする自動車用エンジン部品を生産しております。そして、これらの部品の機能、特性が、自動車の環境性能向上に寄与していることを十分認識し、日々研鑽を積んでおります。

近年グローバルでの異常気象は、世界各地での集中豪雨、大洪水の頻発、一方アフリカでの干ばつ等相反する災害が発生しています、国内においても九州北部、秋田の集中豪雨など被災地高齢者の方も経験のない降雨との報道を耳にします、原因は特定できないまでも地球温暖化との結びつきを否定することは出来ないでしょう。

当社は以前より継続的に「環境取り組み３ヵ年プラン」を展開してまいりました。２０１６年度は、第６次の「３ヵ年プラン」を策定し。環境保全の三本柱である「汚染の予防」、「省エネルギー・温暖化防止」、「省資源・リサイクル」に挑戦してきました。特に、ＣＯ２削減の考えのもと、昨年、一昨年に地域の皆さんとともに『オティックスの森』の植樹を行いました。

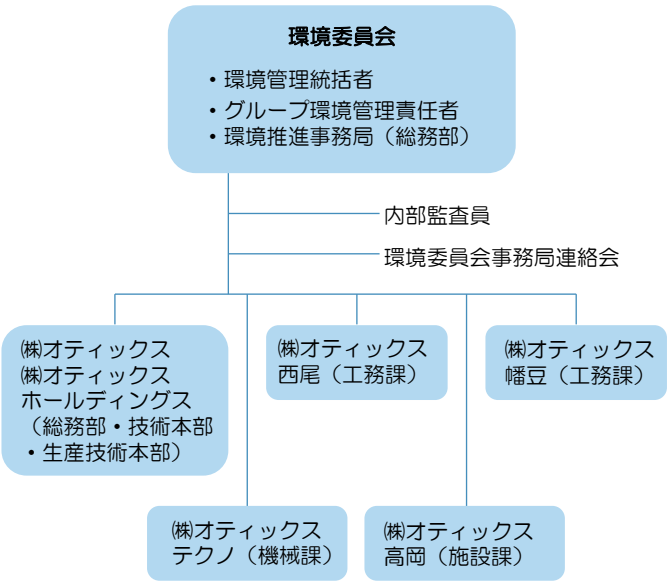
当社はこれらの改善活動をご理解いただくためにも、環境コミュニケーションをより重視してまいります。

引き続きご理解とご鞭撻をお願いいたします。

2017年7月　代表取締役会長　髙須　正孝

グループガバナンス

当社は、グループ全体で環境活動および社会貢献活動を展開しています。



社是・経営理念

Ⅰ．社是

『和と努力』　Harmony &Effort

●顧客→顧客との和／品質への努力

●技術→技術と人間の和／技術革新への努力

●社会貢献→地域社会との和／企業文化創造への努力

●ヤングスピリット→伝統と革新の和／
各自の創意工夫の努力

Ⅱ．経営理念

『和と努力』を基とし、常に創意工夫をもって、品質の向上、コストの低減に努め、会社の繁栄と社員の幸福を図り、社会に貢献する。

認証取得

当社は全グループ会社で下記の認証・登録を取得しています。

認証・登録	認証・登録日	認証・登録番号
ISO9001	1998年3月登録	JQA-2191
ISO14001	2001年5月登録	JQA-4812
ISO/TS16949	2006年6月登録	JQA-AU0126

●環境委員会

3ヵ月に1度、環境管理統括者、グループおよび各社環境管理責任者、環境委員会事務局連絡会メンバーが環境取り組み３ヵ年プランの推進および環境マネジメントシステムの運用状況の確認を行います。また、環境関連法規制、ISO14001改訂に伴う課題の対策などを行います。

●環境委員会事務局連絡会

毎月、環境推進事務局、各社担当課メンバーにて環境委員会の協議内容の進捗確認および省エネルギー委員会の報告、情報共有を行います。

現場への展開は、各社担当課に選任された省エネルギー委員会が行っています。

コンプライアンス管理として、各社で環境管理責任者に任命された法定管理者、法定責任者を置き、法定で定める役割、責任を果たすための権限を与えています。

環境方針

オティックスグループ（以下当社）は、かけがえのない自然の大切さを認識し、地球環境の改善が事業活動の最重要課題の一つであると位置づけています。

当社はエンジン動弁系部品の専門メーカーとして精密機能部品を生産していますが、その生産活動、製品が環境に深く関わっていることを踏まえ、地域環境のみならず地球環境保全のために環境負荷低減を積極的に展開します。そのため、環境マネジメントシステムを構築し、全従業員参加のもと継続的な改善及び汚染の予防を推進します。

1．当社に適用される環境側面に関連する法律・協定・ガイドライン・業界規範等の要求事項を遵守し、並びに生物多様性及び生態系の保護を含む活動で地域との環境調和をはかります。
2．当社は環境負荷を低減するため環境目的及び目標を設定すると共に、全従業員一丸となって継続的に改善を推進します。
3．当社で働く全従業員、又は当社のために働く全ての人に本方針を周知させるため、教育・啓蒙活動を行います。
4．本方針は文書化し、要求があれば一般の人にも開示します。

改定日：2016年7月1日
株式会社オティックス
代表取締役会長　高須正孝

環境保全の三本柱

当社はエンジン動弁系部品専門メーカーとして、全員で循環型社会の構築を目指します。環境取り組みは２０１６年2月に第６次３ヵ年プランを立て、右記の活動を行っています。

1．環境コミュニケーションの推進
地域とともに環境活動に取り組みます
地域交流、環境情報の公開、生物多様性に全力で取り組みます。

2．CO_2排出量の低減
生産に対し前年度に比べ１％削減を目指します
製造設備の省エネルギー対策や生産性を向上させることで実現します。

3．産業廃棄物の低減
生産に対し前年度に比べ３％削減を目指します
最終的に埋め立てられる廃棄物を限りなくゼロにしていきます。

製品開発での環境配慮

製品の粗材（そざい）、生産、使用、回収・再生を考えた開発に取り組んでいます。

●粗材（回収・再生）

環境になるべく負担のかからない、人や環境に優しい材料の使用を目指します。関連する部署と協力し、使用する材料に汚染物質が含まれていないか確認しています。

●製造

使用するエネルギーを減らし廃棄物をなるべく出さない設計を目指します。会社全体で製品の設計内容を確認しています。

●使用

部品を軽くしたり、摩擦力を小さくしたり、 自動車が少ないガソリンでたくさん走れるような部品の設計を目指します。

生産工程設計の環境配慮

製品の品質、生産量、コストを満足させる生産工程の設計を行っています。また、使用するエネルギーを少なくするなど、環境に配慮した設備を導入しています。

1．エネルギー使用量を減らした設備づくり

①生産設備をスリム化（小型化）する
②エネルギー消費の少ない機器を導入する
③複数の工程を同時に加工する「複合設備」を導入し、設備の台数を減らす
④電気使用量の大きいエアーブロー（空気の吹きつけ）を減らす

2．環境に配慮した設備づくり

①新しい生産設備を導入する際に使われなくなった設備は改造して利用する
②近隣の住民、従業員の健康や快適性に配慮した騒音の少ない設備を導入する

2014年度　環境目標と実績

2014年度は、2013年度に立てられた第5次3ヵ年プランの中間年度でした。
2016年立てられた第6次3ヵ年プランとは一部項目が異なります。

2014年度目標	結果	評価
1．汚染の予防		
公害につながる汚染を発生させません	発生はありませんでした	●
自主基準を超える汚染を発生させません	水質1件（高岡）、水質・騒音3件（西尾）	×
法令を守ります	改正された法令を確認し、守りました	●
取引企業の要求に応えます（グリーン調達対応）	達成しました	○
2．CO_2排出量の低減		
CO_2排出量を生産に対し2013年に比べ1%削減します	2.5%増加しました	×
3．産業廃棄物の低減		
産業廃棄物を生産に対し2013年度に比べ3%削減します	7.1%削減しました	○
産業廃棄物の処分量を2000年度に比べ68%削減します	38%削減しました。 再利用先の開拓を推進しましたが未達となりました。機器の導入、分別の徹底を図ります。	△
生産工程から出た廃棄物を85%以上リサイクルします	82%リサイクルしました。 さらに再利用先の開拓を推進します。リサイクル機器の導入、分別の徹底を図ります。	○
環境に負荷を与える物質を管理します また、第一種指定化学物質の使用量を10%削減します	6%削減しました。 代替え品に切り替えを推進しましたが未達となりました。代替え品の研究開発を図ります。	△

評価：法定項目は達成●、未達×、努力義務項目は達成率で　○80%以上　△50～79%　×59%未満

マテリアルバランス

当社は、グループ全体で環境取り組みを進めるため、全社目標として環境取り組みプランを立て、
グループ全体で数字を管理しています。
ここでは2014年度グループ全体で使われた資源の量と、製造後に排出される物の量をご紹介します。

Input		Output	
●エネルギー		●CO_2	32,000t
電気	50,000MWh	●排水	93,000t
LPガス	350 t	●産業廃棄物	
LNGガス	2,700千㎥	産業廃棄物排出量	900t
重油	550kℓ	再利用（リサイクル）量	4,000t
軽油	0kℓ		
●水	100,000t		
●化学物質	9.20t		

2015年度　環境目標と実績

2015年度は、2013年度に立てられた第5次３ヵ年プランの最終年度でした。
2016年立てられた第6次３ヵ年プランとは一部項目が異なります。

2015年度目標	結果	評価
１．汚染の予防		
公害につながる汚染を発生させません	発生はありませんでした	●
自主基準を超える汚染を発生させません	発生はありませんでした	●
法令を守ります	改正された法令を確認し、守りました	●
取引企業の要求に応えます（グリーン調達対応）	達成しました	○
２．CO_2排出量の低減		
CO_2排出量を生産に対し2014年に比べ1%削減します	8.1%削減しました	●
３．産業廃棄物の低減		
産業廃棄物を生産に対し2014年度に比べ3%削減します	5.7%削減しました	○
産業廃棄物の処分量を2000年度に比べ68%削減します	40%削減しました。 再利用先の開拓を推進しましたが未達となりました。機器の導入、分別の徹底を図ります。	△
生産工程から出た廃棄物を85%以上リサイクルします	81%リサイクルしました。 さらに再利用先の開拓を推進します。リサイクル機器の導入、分別の徹底を図ります。	○
環境に負荷を与える物質を管理します また、第一種指定化学物質の使用量を10%削減します	7%削減しました。 代替え品に切り替えを推進しましたが未達となりました。代替え品の研究開発を図ります。	△

評価：法定項目は達成●、未達×、努力義務項目は達成率で　○80%以上　△50～79%　×59%未満

マテリアルバランス

当社は、グループ全体で環境取り組みを進めるため、全社目標として環境取り組みプランを立て、
グループ全体で数字を管理しています。
ここでは2015年度グループ全体で使われた資源の量と、製造後に排出される物の量をご紹介します。

Input		Output	
●エネルギー		●CO_2	31,000t
電気	52,000MWh	●排水	89,000t
ＬＰガス	330ｔ	●産業廃棄物	
ＬＮＧガス	2,700千㎥	産業廃棄物排出量	1,100t
重油	470kℓ	再利用（リサイクル）量	4,500t
軽油	0kℓ		
●水	96,000t		
●化学物質	8.50t		

2016年度　環境目標と実績

2016年度は、新たに立てられた第6次3ヵ年プランとなります。

2016年度目標	結　果	評価
1．汚染の予防		
公害につながる汚染を発生させません	高岡工場構内で土壌からフッ素検出、市へ報告し、適正に対応	●
自主基準を超える汚染を発生させません	高岡工場で工場排水にアンモニアとSS(注1)超過発生	×
法令を守ります	改正された法令を確認し、守りました	●
取引企業の要求に応えます（グリーン調達対応）	達成しました	○
2．CO_2排出量の低減 CO_2排出量を生産に対し2015年に比べ1%削減します	2.3%増加しました	×
3．産業廃棄物の低減		
産業廃棄物を生産に対し2015年度に比べ3%削減します	10.8%削減しました	○
産業廃棄物の処分量を2000年度に比べ68%削減します	46%削減しました。 再利用先の開拓を推進しましたが未達となりました。機器の導入、分別の徹底を図ります。	△
生産工程から出た廃棄物を85%以上リサイクルします	83.5%リサイクルしました。 研磨粉等のリサイクル利用で産廃から売却品として有効利用できました。	○
環境に負荷を与える物質を管理します また、第一種指定化学物質の使用量を10%削減します	10%増加しました。 代替え品に切り替えを推進しましたが未達となりました。代替え品の研究開発を図ります。	×

評価：法定項目は達成●、未達×、努力義務項目は達成率で　○80%以上　△50～79%　×59%未満

注1：SS：水質の指標で水中に浮遊する微粒子の濃度

マテリアルバランス

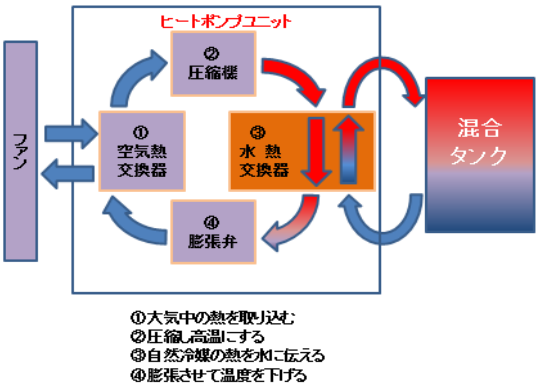
当社は、グループ全体で環境取り組みを進めるため、全社目標として環境取り組みプランを立て、管理しています。
ここでは2016年度グループ全体で使われた資源の量と、製造後に排出される物の量をご紹介します。

Input		Output	
●エネルギー		●CO_2	20,000t
電気	53,000MWh	●排水	73,000t
LPガス	390 t	●産業廃棄物	
LNGガス	2,700千㎥	産業廃棄物排出量	930t
重油	530kℓ	再利用（リサイクル）量	4,700t
軽油	0kℓ		
●水	98,000t		
●化学物質	9.5t		

CO2排出量低減の取り組み

2016年度CO2低減活動の取り組みのひとつとして、高岡工場のライン洗浄機で液を昇温させるのに電気ヒーターを使用していましたが、熱効率が悪いため、ヒートポンプタイプの温調設備に更新し、使用電力が6KWから3KWに半減することができました。

2016年度は大きな成果の出る改善は出来ず、蒲郡工場の新設も有り、エネルギー原単位も悪化してしまいましたが、エアー漏れの調査、修理等地道な活動で成果を出しています。今後は、新設ラインの立ち上げや設備更新等で省エネ性能を考慮した計画を、展開していきます。



生物多様性の取り組み

2016年11月5日に、オティックス高岡工場にて「OTICSの森づくり」の第二弾として約３０００本の植樹イベントを開催しました、木の種類もこの地域の固有種に限定し、生態系の保全にもつながるよう専門家の指導を受け準備しました、前年の技術本館での植樹に続き他の工場にも順次展開をしていく予定です。

当社は2018年創業100周年を迎えます、地域のみなさんの参加で将来にわたり地域や自然との共生のシンボルとして森が成長するよう、今後も生物多様性への取り組みに力を入れ、地域の生態系保全、自然バランスの保持に努めていきます。

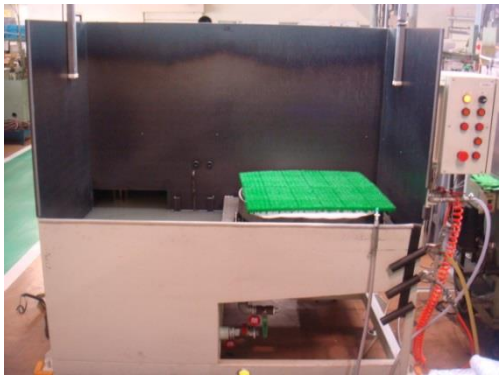
汚染を防ぐ取り組み

高岡工場では工場緑地帯を植樹スペースに造成するため自主的に土壌の調査をしたところ「フッ素及びその化合物」が県条例基準値の２倍で超過が検出されました、この結果は市へ報告し、発生源付近の観測井戸にて定期で測定し、市へ報告しています。

2016年度はグループ全体で、苦情0件でしたが水質高岡３件で自主基準値超過がありました。是正は完了し、同様箇所への水平展開で今後も弛まず汚染の防止に取り組んでいきます。

産業廃棄物低減の取り組み

2016年度はテクノ工場ではフィルター付き洗浄槽導入による洗浄液寿命延長による廃液低減に取り組みました。更液の頻度は１回/週から１回/6か月に伸びて220L/月産廃低減できました。



洗浄槽とフィルター装置

高岡植樹風景

お客様との関わり

当社は、自動車業界およびお客様からの要求事項にお応えします。

（社）日本自動車部品工業会　第８次「環境自主行動計画」（2016年4月1日改正）

（社）日本自動車部品工業会では、環境問題への対応を重点対策としてとらえ、地球にやさしい環境作りを推進するために環境自主行動計画を定めています。

1.CO_2 排出量

目標：2020 年までに 13%低減（2007 年度比）
実績：2016年までに、2007年度比２２％低減し、目標を達成しました。
当社では2016年度は各社省エネ改善活動を実施し、着実なCO_2排出量低減を実現しました。

2.産業廃棄物量

目標：2020年度までに生産工程から発生する廃棄物の最終処分量を６８％削減（2000 年比）、および再資源化率８５％以上とする。
実績：2016年までに、最終処分量４６％削減に留まり目標は達成されませんでした。2016年度の改善活動として、オティックステクノでは洗浄液を定期交換していましたが、浄化処置等リユース化を進め、要求品質を確保し、交換頻度を減らすことで産廃としての排出量を低減することができました。

3.揮発性有機化合物排出量（VOC）

目標：2020年度までにVOC排出量を３０％削減（2000年度比）。有害大気汚染３物質(ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン)は９５％削減（2000 年度比）する。
実績：2016年、現在対象物質は全廃しました。

顧客　グリーン調達ガイドラインへの対応

当社はトヨタ自動車㈱をはじめ客先がサプライヤー企業との連携を強め、真の持続可能な社会の実現に向けチャレンジするために発行している、グリーン調達ガイドラインの要求事項に対応しています。

仕入先様との関わり

コンプライアンス、環境保全のために仕入先様を訪問し現場環境の確認を行っています。

確認項目は以下のとおりです。

●油保管状況：水溶性油保管状況、油性油保管状況
●薬品保管状況：排水薬品、工程薬品（フラックス剤・硫酸など）
●切粉捨て場状況：リサイクル状況、保管状況（流出の有無）
●排水分離状況：工場内処理の有無
●騒音・振動に関する苦情の確認：境界敷地近隣の状況（民家の有無、騒音発生設備の有無）
●SOC4（鉛、カドミウム、水銀、6価クロム）の対応状況：根拠書類の有無、分析シートの請求と補完
●溶剤（塗料など）の管理状況：VOC、規制物質の有無など
●環境改善：ISO14001の取得状況、エネルギーの削減状況、環境月間における取り組み
●その他：
・太陽光発電５０kW設置状況、暖房１８℃設定での重油、灯油の使用量低減の取り組み
・３ヵ年目標の策定推進（不良低減、ミスト低減、工場美化（緑化）実施）
・高周波焼き入れ設備の有無と届出の有無

訪問時には観察事項および指導事項を記録に残し、指導事項に関しては是正処置の回答をいただき、環境取り組みの向上をはかっています。

従業員との関わり

当社は、従業員の環境意識向上のため社内外のイベントを通して環境活動の重要性を伝えています。

エコ活動事例発表会

当社では、毎年「エコ活動事例発表会」を実施し、各社で実施した省エネ、CO_2排出量低減活動を共有しています。実施内容の効果の検証および全社展開、他設備への展開に役立っています。

今回は、OTICSの生物多様性への取組み、洗浄槽導入による産業廃棄物削減、暖房機燃料使用量低減活動、幡豆ＣＯ２排出量低減活動報告、洗浄機ヒートポンプ化による動力費低減が発表されました。

洗浄液に関しては液の浄化槽導入、温調を電気ヒーターからヒートポンプへ変更し電力削減することが決まりました。

重油焚き暖房機は温風ダクトの配置見直しで高効率の運転ができました。

オティックスフェスタで環境コーナーを設置

オティックスフェスタでは地域の皆様と従業員とのコミュニケーションを推進しています。環境コーナーでは緑のカーテンコンテストや生物多様性絵本の作成を行っています。

生物多様性絵本作成コーナーの様子

地域との関わり

当社は、開かれた事業所を目指し、様々な取り組みを通して地域との共生に努めます。

地域コミュニケーション

当社では、自治体および地域の代表者にお越しいただき、会社概要、環境取り組み、工場見学、意見交換会を実施しています。地域の代表者からは、地域の環境活動のけん引役、雇用の増加についてご要望いただくとともに、エコレポートで未達成項目の内容について詳細を求められました。行政からは、苦情の有無について質問があり、積極的情報公開で地域とのコミュニケーションを継続していくよう要望がありました。

工場見学の様子

地域貢献活動

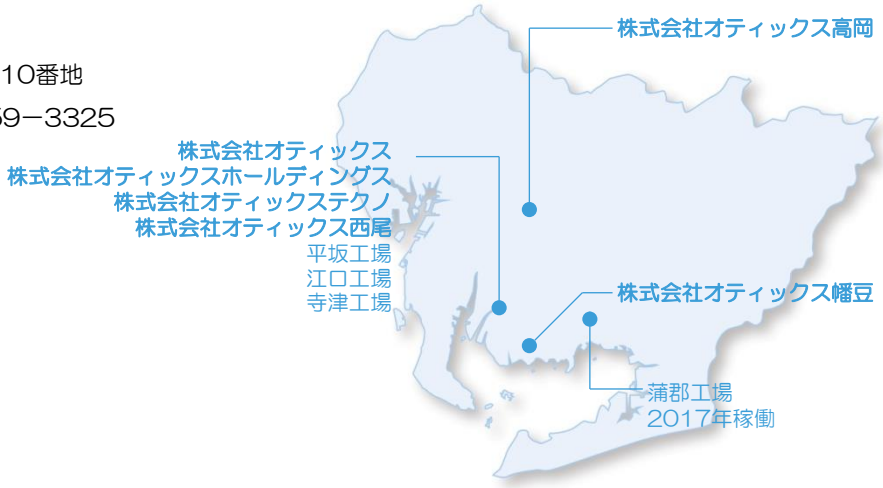
当社では、地域貢献活動として、災害時に技術本館を緊急避難所として提供すること、災害停電時に自家発電電力を提供すること、災害用備蓄品を提供することをお約束しています。また、技術本館周辺の植樹を通じて地域の緑化、オティックスフェスタなど地域住民参加イベントの開催を通して開かれた事業所を目指し、地域との共生に努めます。その他、年2回の工場近隣の美化活動に参加しています。

地域の美化活動への参加

グループ概要

株式会社オティックス

〒444-0392　愛知県西尾市中畑町浜田下10番地
TEL.0563－59－6481　FAX.0563－59－3325
http://www.otics.co.jp



グループデータ　2017年1月末実績

創業：大正7年（1918年）
資本金：303百万円
売上高：508億円（国内）
従業員：1,139名

会社沿革

1918年：小田井鉄工所
　　発電機・綿織機の修理工場として創業
1931年：㈱豊田自動織機製作所と取引開始
1935年：工作機械の製作開始
1942年：トヨタ自動車工業㈱より旋盤受注
1943年：東海飛行機㈱よりオイルポンプ受注
1946年：トヨタ自動車工業㈱よりロッカーアーム受注
　　これより自動車部品の取引開始
1949年：小田井鉄工㈱設立、トヨタ自動車協豊会
　　（現協豊会）へ設立と同時に入会
1965年：豊田工機㈱と取引開始
1967年：平坂工場完成
1969年：高岡工場完成
1974年：寺津工場完成
1975年：ダイハツ工業㈱と取引開始
1979年：トヨタ品質管理賞優良賞受賞
1981年：江口工場完成、ヤンマー㈱と取引開始
1983年：トヨタ自動車㈱より専用工作機を受注
1991年：東京モーターショーに初出展
　　資本金100百万円
1992年：社名を㈱オティックスに変更
1997年：富士重工㈱と取引開始
　　P.T.OTICS Indonesia設立
1998年：ISO9001取得、幡豆工場完成
　　いすゞ自動車㈱と取引開始
2000年：資本金303百万円
2001年：トヨタ技術開発賞受賞、ISO14001取得
　　OTICS USA,Inc.設立
2002年：QS9000取得
2003年：トヨタ品質管理優秀賞受賞（2年連続受賞）
2004年：三菱自動車工業㈱と取引開始
　　欧德克斯机械工业(常熟)有限公司設立
2005年：製造部門を分社、トヨタ技術開発賞受賞
2006年：スバル開発車貢献賞受賞
　　ISO/TS16949取得
2008年：スバル特別貢献賞受賞
2009年：トヨタ特別賞 5年連続品質管理優秀賞受賞
　　トヨタ技術開発賞受賞（2年連続受賞）
2010年：いすゞ品質優良賞受賞（2年連続受賞）
2012年：OTICS（Thailand）Co.,Ltd.設立
2013年：いすゞ品質優良賞受賞、
　　オティックス技術本館完成
2014年：トヨタ特別賞 10年連続品質管理優秀賞受賞
　　ダイハツ特別賞 連続品質優秀賞受賞
　　（7年連続受賞）
2015年：トヨタVA推進優秀賞受賞
　　いすゞ品質優良賞受賞
　　OTICSの森づくり技術本館にて実施
2016年：蒲郡工場完成
　　OTICSの森づくり高岡工場にて実施

お問い合わせ先

株式会社オティックスホールディングス
総務部　安全・環境グループ
〒444-0392　愛知県西尾市中畑町浜田下10番地
TEL.0563－59－6481　FAX.0563－59－3325

対象組織：国内グループ企業
対象期間：2016年2月～2017年1月　※一部それ以外の報告を含む
発　　行：2017年10月（次回は2018年6月発行予定）